

わたしたちは 即時停戦を求めます



命を守れ！

イスラエルはただちに無差別殺りくを止めよ！

このままでは計り知れない惨禍が

10月7日に起こった、パレスチナ自治区ガザを実効支配するハマスによるイスラエルへの無差別攻撃に対し、イスラエルによる激しい無差別攻撃がくり広げられています。

すでに、イスラエル側の死者1400人余、パレスチナ側の死者は8000人余（うち子どもの死者3000人余＝10月29日現在）にのぼります。イスラエルはガザへの水道、電気、燃料、食料の供給を遮断し、地上軍事作戦も開始しました。このままでは、さらに多くの人命が奪われかねません。国際法違反の無差別殺りくはただちに中止し、即時停戦を求めます。

イスラエルは不当な占領を止めよ

この衝突の根底にあるのは、イスラエルによるパレスチナへの無法な占領と植民地支配です。イスラエルは住民の強制排除を行い、ガザ地区には封鎖と侵攻をくり返してきました。ガザ地区は「天井のない監獄」と呼ばれ、230万人もの人々が貧困にあえいでいます。

このイスラエルによる不当な占領を止めさせ、パレスチナとイスラエルの双方が相手の生存権を認め、平和的共存の原則の下に話し合いで解決することが求められています。国際社会はそのために努力すべきです。

恥ずべき日本政府の態度——停戦へ行動を

10月27日、国連総会はイスラエルとハマスの大規模衝突をめくり、すべての当事者に国際法遵守と自制、そして「人道的休戦」を求める決議を121カ国の賛成で採択しました。米国やイスラエルなど14カ国が反対し、日本や英国など44カ国が棄権しました。恥ずべきことです。

日本政府は、ハマスだけでなく、イスラエルの国際法違反の無差別攻撃中止も求め、停戦のために行動すべきです。

全国から、イスラエル大使館に抗議のメール、ファックス、電話を集中しましょう！

Fax 03-3264-0791 TEL 03-3264-0911

大使館広報部メール：information@tokyo.mfa.gov.il

日本平和委員会

2023年10月発行
一人ひとりの平和の願いをもとに行動する平和NGOです
「平和新聞」（旬刊）、「平和運動」（月刊）発行中
<http://j-peace.org/> (t) (f)

